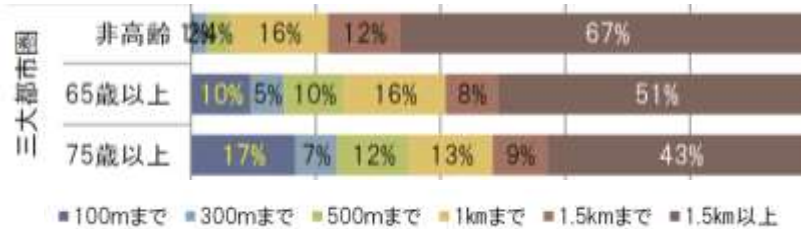


社会変化 身近な生活サービス向上の希求

・国土交通省における「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成に関する取組の推進など、**高齢者をはじめ居住者が歩いていける範囲で快適に暮らせるまちづくり**が求められている。

【高齢非高齢別無理なく休まず歩ける距離（三大都市圏）】

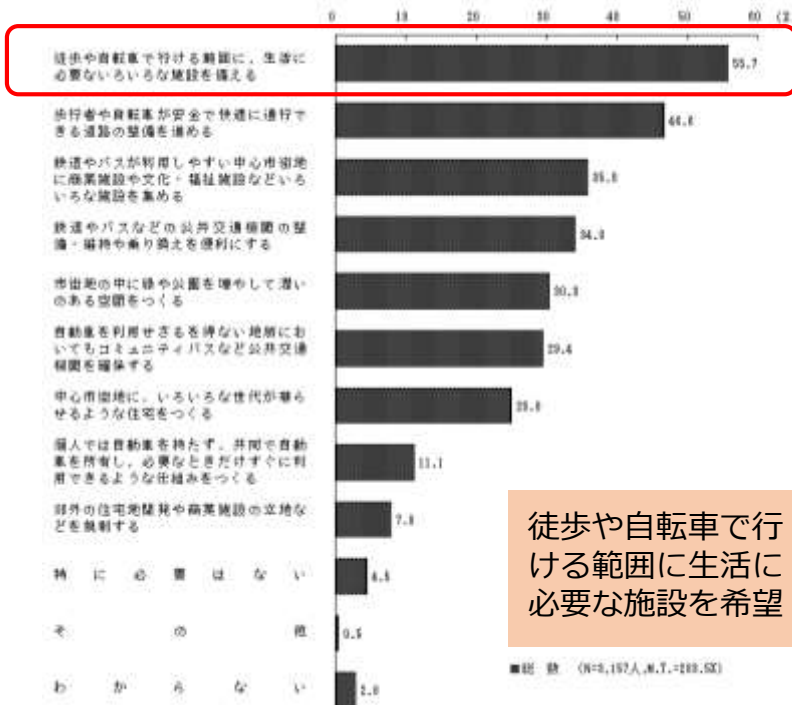


年齢が高くなるほど歩ける距離は短くなる

資料：国土交通省「全国都市交通特性調査」（平成27年）

出典：高齢者の生活・外出特性について（国土交通省）

【歩いて暮らせるまちづくりに必要な取組（全国20歳以上）】



徒歩や自転車で歩ける範囲に生活に必要な施設を希望

■調査数 (N=8,192人, W.T.=188.5X)

出典：歩いて暮らせるまちづくりに関する世論調査(H21年7月内閣府)

【「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ】

居心地が良く歩きたくなるまちなか

- Walkable** 歩きたくなる: 居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたいくなる、歩きたくなる。
- Eye level** まちに開かれた1階: 歩行者目線の1階部分等に店舗やカフェがあり、ガラス張りの中が見えると、人は歩いて楽しくなる。
- Diversity** 多様な人の多様な用途、使い方: 多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
- Open** 開かれた空間が心地良い: 歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

出典：「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会（令和元年6月26日）」中間とりまとめ（国土交通省）

みどりを活用した取り組み事例



《公園における健康づくり活動》
 ■北九州市の公園遊具指導実施風景
 (令和元年5月撮影)



《座れる場の多い、安心なまちのイメージ》

■世田谷区座れる場づくりガイドライン（平成30年3月）
 (歩行空間やそこに近接する空間におけるベンチ等の設置に関する基本的な考え方やアイデアをまとめたもの)



《緑道でのウォーキングを促進するマップの作成》
 ■堺市南区「緑道ウォーキングMap」



《地域住民の活動場所となっている公園》

■生駒市の取組「公園にいこーえん」
 (公園でやりたいことのアアイデアを市民から募集し、実施)

みどりに求められる役割の変化

健康寿命向上のための健康づくりの場としての役割の重視
（公園、緑道）

多様な主体の活動の場、緩やかな交流の場、サードプレイスの提供
（子育て世代、企業等とのつながり）

歩いて暮らせるまちづくりにおける役割の重視（身近な公園、座れる空間）



八幡屋公園でのラジオ体操



大阪市の取組「パークファン」

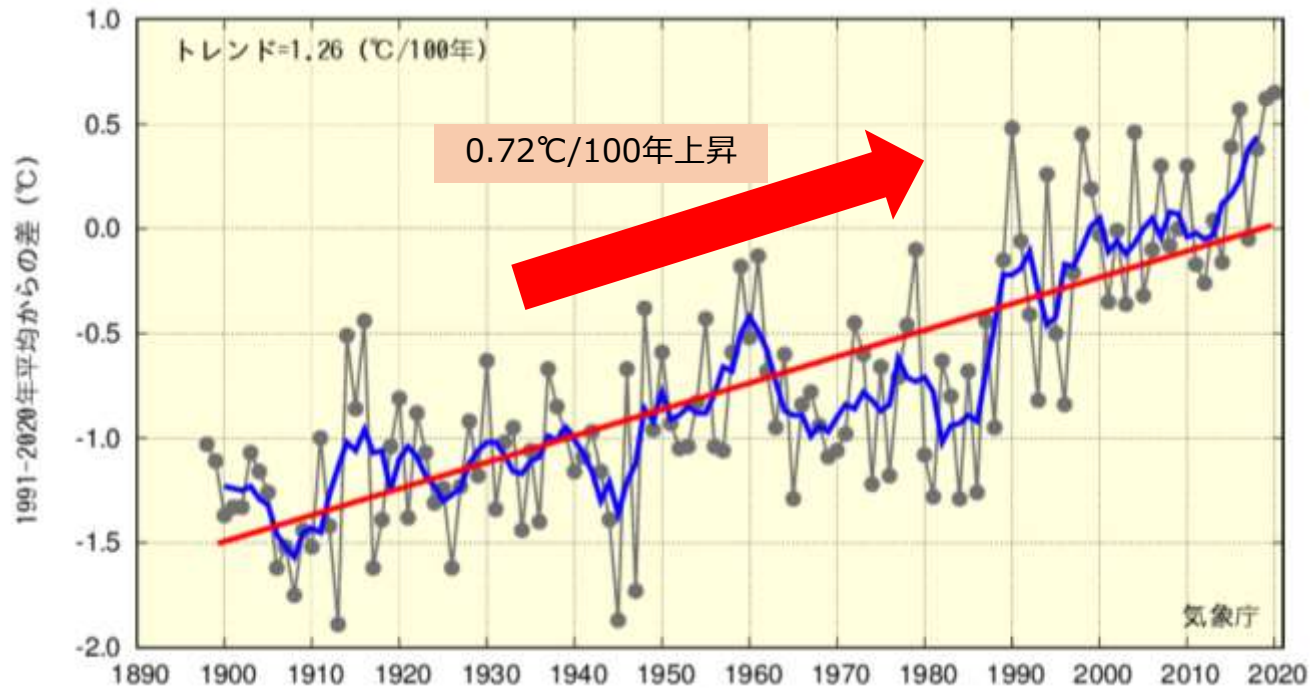


B. 地球環境に配慮した持続可能な社会形成の追求

動向 世界的な平均気温の上昇（温室効果ガス排出量の増加）

- ・世界の年平均気温は、変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり0.72℃の割合で上昇している。
- ・温室効果ガス排出量の増加に伴い、日本をはじめ世界的に平均気温が上昇していることで、災害リスクの増加、水資源や自然生態系への影響、またこれらに伴う農作業や水産業への影響が問題となっている。

【日本の平均気温偏差】



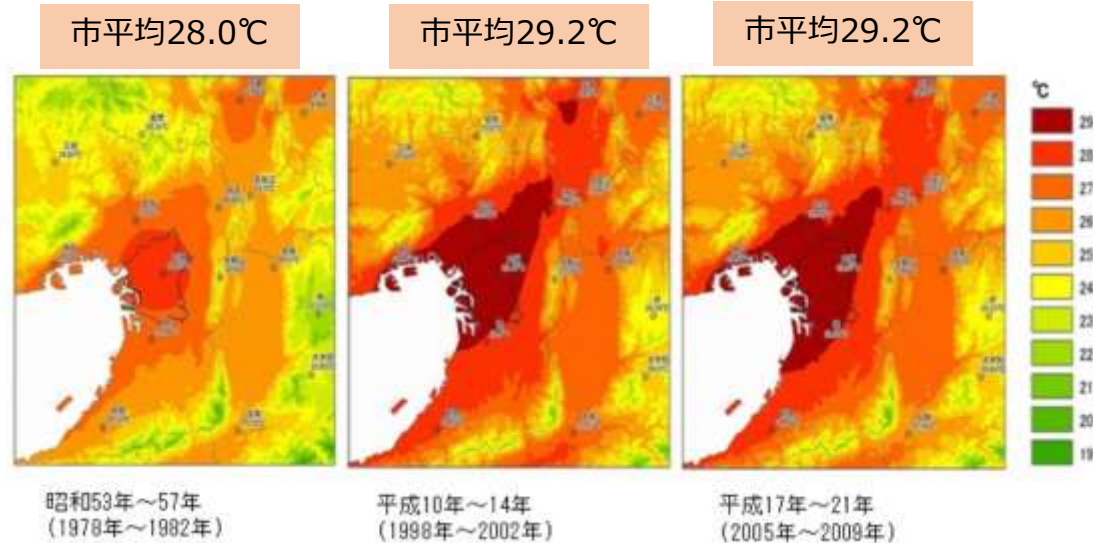
細線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差
 太線（青）：偏差の5年移動平均値
 直線（赤）：長期変化傾向
 基準値は1991～2020年の30年平均値

出典：気象庁HP

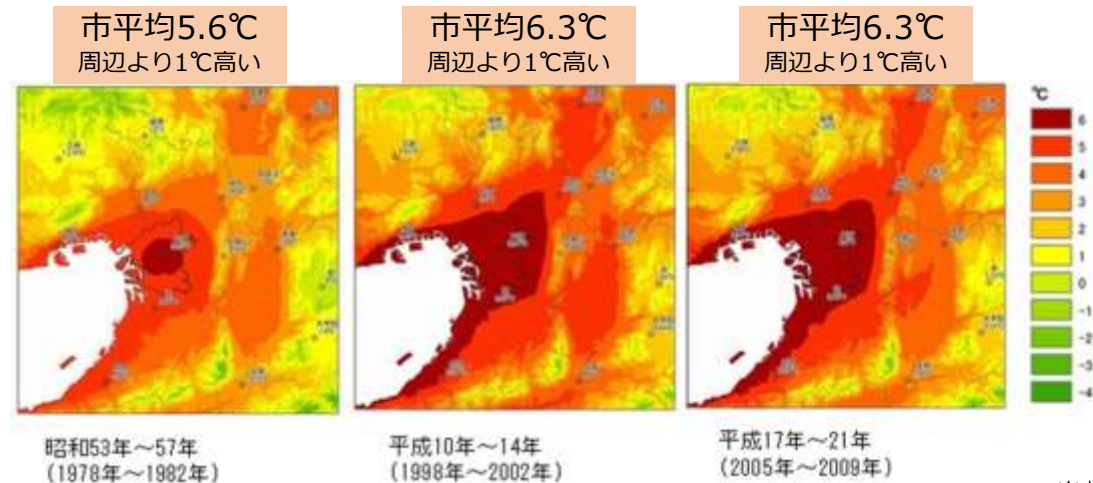
動向 ヒートアイランド現象の顕在化

・周辺地域と比較して大阪市は気温が高く、ヒートアイランド現象が顕在化している。このため、とくに**猛暑において熱中症が多く発生し、人命を脅かしている。**

【大阪市及び周辺のアメダス気温観測結果から推定した8月の平均気温分布図】



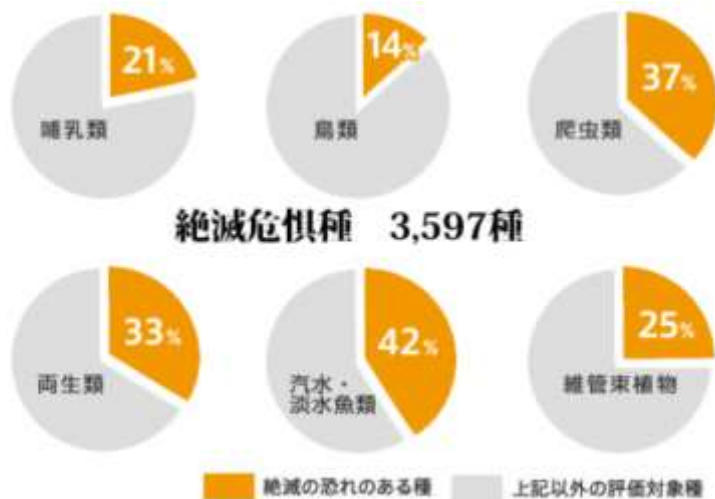
【大阪市及び周辺のアメダス気温観測結果から推定した1月の平均気温分布図】



動向 生物多様性保全への警鐘

- ・開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少および里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下、外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱、地球環境の変化による危機の影響により、日本の野生動植物の約3割が絶滅の危機に瀕している。
- ・大阪市でも、590種を「保護上注目すべき生き物」としている。

【日本の野生動植物における絶滅危惧種】



出典：環境省HP「生物多様性」

【大阪市内における保護上注目すべき生き物】

No.	分類群	市内で生息・生育記録がある生き物					
		生息・生育していると考えられる生き物		絶滅したと考えられる生き物（注1）			
		保護上注目すべき生き物		保護上注目すべき生き物		大阪市内の分布は人為によると思われるもの	
1	哺乳類	10	13	6	3	1	2
2	鳥類	324	319	61	5	0	5
3	爬虫類	11	9	6	2	2	0
4	両生類	7	4	2	3（注2）	3（注2）	0
5	汽水・淡水魚類	120	120	32	0	0	0
6	昆虫類	1,768	1,766	249	12	12	0
7	アモ類	100	100	6	0	0	0
8	維管束類	27	27	（注3）	（注3）	（注3）	（注3）
9	淡水産貝類	22	21	0	1	1	0
10	海産生物（無脊椎動物及び藻類）	231	226	25	5	5	0
11	その他水生無脊椎動物	10	10	（注3）	（注3）	（注3）	（注3）
12	維管束植物	1,488	1,476	185	32	10	2（注4）
13	コケ植物	96	96	5	0	0	0
14	菌類	282	282	（注3）	（注3）	（注3）	（注3）
	合計	4,902	4,489	596	43	34	9

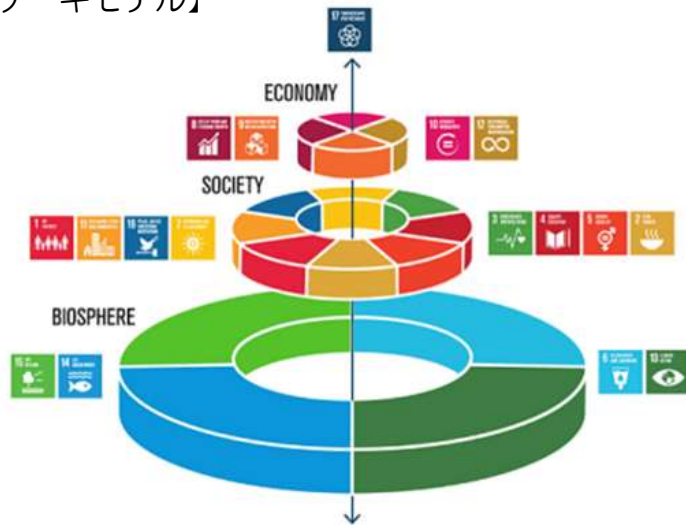
注1：大阪市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、大阪市内ではすでに絶滅したと考えられる種。
 注2：近年一部地域で確認されたトノサマガエルは、人為的に持ち込まれたものであり、かつては大阪市内に生息していたものの、現在はずでに絶滅したと判断し、「保護上注目すべき生き物」として分類した。
 注3：大阪市内の生息情報が少なく、データ収集と整理はできないため、生息状況の概要を示す。
 注4：園芸的な植栽による維管束植物は、「保護上注目すべき生き物」として分類していない。

出典：「大阪市生物多様性戦略（令和3年3月）」

社会変化 SDGsの考え方の波及、浸透

・SDGsは、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけている。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むもの。

【ウエディングケーキモデル】



目標 8. 働きがいも経済成長も
 目標 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
 目標 10. 人や国の不平等をなくそう
 目標 12. つくる責任 つかう責任

目標 1. 貧困をなくそう
 目標 2. 飢餓をゼロに
 目標 3. すべての人に健康と福祉を
 目標 4. 質の高い教育をみんなに
 目標 5. ジェンダー平等を実現しよう
 目標 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
 目標 8. 住み続けられるまちづくりを
 目標 16. 平和と公正をすべての人に

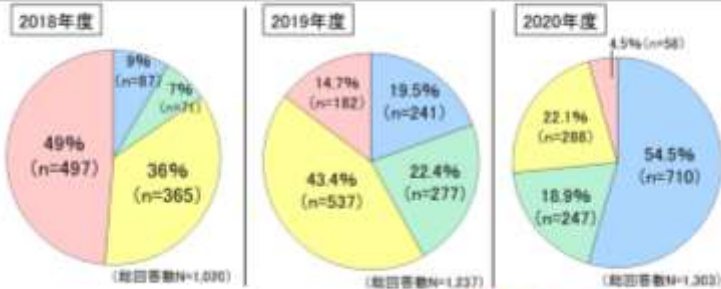
目標 6. 安全な水とトイレを世界中に
 目標 13. 気候変動に具体的な対策を
 目標 14. 海の豊かさを守ろう
 目標 15. 陸の豊かさを守ろう

出典：SDGs media

【SDGsに関する全国アンケート調査結果「地方創生SDGs達成に向けて取組を推進しているか」】

調査項目：地方創生SDGs達成に向けて取組みを推進されていますか？

■ 推進している (「ある程度推進している」+「十分に推進している」)
■ 今後推進していく予定がある
■ 今後推進を検討していく予定がある
■ 推進しておらず今後推進していく予定もない



※「SDGsを知っている」と回答した自治体は99.9%

■ 全自治体に占める、「推進している」と回答した自治体の割合 (母数：1,788)

4.9% (87/1,788) **13.5%** (241/1,788) **39.7%** (710/1,788)

【令和2年度調査結果】※調査実施主体：自治体SDGs推進協議会・調査検討会、調査時期：2020年9月25日～11月13日
 ※対象1,788 (都道府県・市区町村)・自治体：1,303 (うち：45都道府県、1,258市区町村)・回答率：72.9%